

自己評価結果票

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境」「自立した生活」「地域とのふれあい」「笑顔で自分らしく」との理念を掲げ、職員や家族に明示し、説明している。面会の継続、近隣施設等との交流を図っている		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に掲示し、理念の意識付けを図っている		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対し、事業所の行事への参加案内をすることで、地域との交流を図り理解してもらえよう努めている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員同伴で近隣商店、近隣施設へ出かけたり、立ち寄る等している。挨拶も行き、気軽に声かけ等出来るよう努めている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所周辺施設との交流事業を計画し、交流の機会の確保を図っている。地域行事への参加も行っている。常時お話ボランティア、学生ボランティアの受け入れも行い地域との交流に努めている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者個人を理解し、その人に合った支援が出来るよう定期的な職員間ミーティングを開催している。また、地域住民よりの相談も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を基に職員が事業内容の充実、改善に向け取り組む事ができる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回は指摘を受けたが、運営推進会議は設置していない入所判定委員会時に討議されている。		運営推進会議の開催が以前よりの課題である。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の状況は必要に応じ地域包括支援センター、健康福祉課にも報告している。町立診療所をホームドクターとし利用者の健康面において連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政担当者と連携を図ることで、相談、指示を得るようにはしているが、学ぶ機会は持つことが出来ない。		研修会等への参加の必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習の機会は持つことが出来ない状態である。必要時には地域包括支援センターと連携を図るようにしている。利用者の経過記録をすることで変化に対し早期発見と予防に心がけるようにしている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	契約時には契約内容、重要事項説明書内容を読み上げ説明するようにしている。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	重要事項説明書に苦情処理受付窓口を掲載し説明している。また、利用者から聞いたことは職員間で話し合うようにしている		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告	家族等が事業所訪問時に、管理者、職員が面談し報告している。請求書送付時に生活状況を報告するようにしている。年2回程度家族を交えた交流会も開催している。いつでも面会できるようにしている。		
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
15	○運営に関する家族等意見の反映	家族の訪問時に意見を聞き、その都度職員間で対応するようにしている。		
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
16	○運営に関する職員意見の反映	職員ミーティングを利用し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、検討し、反映させている。		
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整	必要に応じ職員を配置できるよう職員の理解のもと調整している。		
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来職員の移動は少ない。定年退職等に伴うやむを得ない移動時には、利用者の申し送りを十分にいき、なじみの職員が間に入ることで利用者のダメージを最小限に抑えるよう配慮する。</p>		
5. 人材の育成と支援			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員研修の機会を設け、研修に参加している。職員に参加意欲がある場合も参加出来るよう配慮している。研修開催内容に合わせての参加申込のため、年間計画が立てられていない。</p>		<p>研修の機会が少ない。計画的な研修受講を出来るように取り組みたい。</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内の事業所と連携を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>		<p>グループホーム間での交流の機会を持ちたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者は積極的に職員の意見、運営者の意見を聞き報告することで、改善に向けた取り組みが出来るよう図っている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員ミーティングに出席し職員の意見を聞く機会を設け、要望、改善点に対して迅速な対応を行うことで職員間の信頼と意欲の向上に努めている。</p>		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申請を受け、家族との面談した後に直接面談し、本人の意志、要望を確認するようにしている。面談することで、直接意見を聞き、顔馴染みになる機会を設けるように努めている。施設見学も勧めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申請後に調整し面談、利用希望理由、事業所に対する希望、期待等を聞く機会を持つようにしている		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、今の希望と将来どのように考えているかを聞くようにしている。その中で、必要な支援として他のサービスも説明するようにしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談後、施設見学を勧め、事業所を理解してもらうようにしている。訪問し本人の思い、家族の思いを聞くようにしている。職員全員が町内在住のため顔馴染みの関係が作りやすい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意見を最優先し、職員から手出しをすることは控え、利用者の理解を得て介助するようにしている。利用者の話に耳を傾け、利用者が積極的に話せる環境作りに努める。地域、季節の行事、習わしを利用者と共に聞きながら行う。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	職員は事業所を、利用者の家庭内における居室であり、共に生活する家族の一員として考え、家族と共に支援していくよう努めている。		
29	○利用者や家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係を理解し、利用者のプラス面を重視して報告しながら、家族でなければ出来ないことを伝え、家族との違いをアピールし、家族との関係の深さを伝えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接する診療所受診時の訪問、デイサービス利用時の面会等、近隣への散歩、ドライブにてこれまでの関係を継続することが出来るよう図っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	事業所内でのくつろぎの空間、食事テーブル位置等を配慮し、利用者同士が会話出来るよう職員が間に入るようにし、また、利用者同士のトラブルの原因を作らないようも努めている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の家族の相談を受けている。他施設で見かけた場合は声かけをして話しをして過ごすことがある。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事、お茶、余暇活動等はリビングにて一緒に過ごし意見交換の時間を持っている。集団を好まない人に対しては居室で過ごす、一人別の場所で外を見て過ごす等個別に対応。一人で過ごす時間、新聞を読む、夫の位牌を拝む、昼寝をする。テレビを見る等自由に過ごしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を収集することでリーダーシップをとってきた方には、指示を仰ぐようにする。孫の守りを終えたことがきっかけとなった方には人形で気分を味わってもらう。百姓を基本に過ごしてきた方には園芸の指示を得る等して、馴染みの暮らし方に、生活環境作りを図っている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の様子を記録に残し、職員全員が利用者を理解、変化に気づくよう努めている。	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時は、入居前の調査票によりケアプランを作成し、実態に合わせてこれを修正し、一日の流れシートに利用者別に配慮すべき点を記入するなど、介護者にも分かりやすく工夫している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録によって実態を把握しながら個別ケアプランシートにまとめ、モニタリングを行い状態に変化がみられた場合は随時ケアプランの見直しを行っている。	

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の生活記録をとっている。職員間で回覧し情報を共有するようにしている。記録により計画の見直しに反映している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所と同一敷地内にある施設の職員等と連携し柔軟な対応が出来るよう努めている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	文化祭への作品の出展、見学、ボランティアの受け入れ救急、災害時の支援、指導等近隣、地域資源を活用しながら支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の意向、本人の状況に合わせて、地域包括支援センター、サービス提供事業所、ケアマネジャー等と連携を図り、利用者のよりよい支援に努めている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	随時地域包括支援センターと連携を持つようになっている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>診療所の往診、家族対応による受診、休日、夜間は家族と連絡を取り医療機関まで送っていくこともあり、それぞれが連携を取りながら定期的、突発的な医療機関受診が出来ている</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>主治医の指示を受けながら対応している。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>事業所管理者が看護職でもあり、また、両診療所看護師同法人運営事業所の看護職員と連携をとるようにしている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>必要時に情報提供書を作成提出し、退院までの連携を図っている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時に、重度化することも踏まえ希望を聞いておく。状況により、家族、主治医、行政と連携し終末期までも対応出来るようには考えている。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>職員の質の向上を図りながら、家族、かかりつけ医と連携し、出来る限り、利用者が一番望む生活を提供できるよう協議、検討する。</p>		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者、家族、事業所間で十分話し合い、情報交換を行い連携を図る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。個人情報については、同意書を取り、利用に際しての同意を得るようにしている。職員には、個人情報漏洩防止に対しては誓約書を取り周知している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の表情、言葉、仕草を観察し、その人の思いや、訴えたいことを理解するようにしている。必ず、声をかけ、意思を確認するようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで過ごすようにしている。利用者の希望を聞き、その都度どのように過ごすかを決めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	寝る前にはパジャマに着替えるようにしている。利用者と共に衣服の購入に出かけ、本人が選んだ物を着ることもある。理美容は近隣にある店に行くか、訪問を受けている。希望する店がある場合は対応出来るようにする。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をするようにしている。好みも取り入れている。利用者一人一人の食事形態に合わせて刻む等行い、食器も目乳に合わせて替えて盛りつけている。旬の食材を取り入れるよう工夫している。		
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事、おやつ、飲み物は好みを聞き対応している。家族等の差し入れも自由に行えるようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握する。一人一人に合わせてトイレ誘導、パット使用、交換介助、排泄介助を行っている。終えかけ、移動介助にて失禁を予防することも出来ている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能な体制をとり、利用者の希望、状態に合わせて、一般浴、シャワー浴、清拭と職員が1対1で対応している。拒否があった場合は、時間を空けて再度声をかける、後日行う等の利用者に対応している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活パターンを把握し、日中は、体操、作業、レクリエーション等を行い、夜間安眠できるよう配慮する。個人の、希望に合わせて昼寝をする。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人にあった役割を持つことで、張り合いのある生活の場の提供に努めている。また、散歩、ドライブ、買い物等で気分転換を図っている。		


項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で身につけて管理している利用者もあるが、ほとんどは、事業所で管理している。必要時に職員が手伝って利用している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や、体調によりドライブ、散歩の介助を行っている。季節に合わせて、お花見、蛍見学、紅葉、バラ園とうに出かけている。日用品、衣類の買い物にも行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	事業所より、数人で出かけることもあり、個別に出かけることもあり、お花見、バラ園、藤の花見学等出かけている。また、家族により出かけられることもあり。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人宛の手紙はそのまま個人に手渡ししている。電話は事務所の電話を利用し利用者がかけている。希望があれば職員が手伝うこともあり。母の日などには花束が届くこともある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の訪問時は、お茶とお菓子を提供し、居室でゆっくり出会ってもらうことができる。面会時間は夜間以外はいつでも対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止はすべての職員が理解している。利用者の状態を把握することで、身体拘束は行っていない。家族にも理解を得るよう説明している。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、窓には施錠しないようにしている。玄関はパスワードを使用し開閉するようになっている。外部からは自由にはいることが出来る。夜間は安全のため施錠している。		
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的な訪室、見回り、声かけを行うことで安否確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全のため針、はさみ、カッター等は、事務所で管理している。個人管理していることもあり、時々声かけをして確認している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の居室内、リビング、行動範囲において危険となるような状況を把握、個々の状態に応じて事故防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	玄関前にAEDを設置し、使用方法については講習を受けている。救急救命法講習も受講している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同法人が主催する避難訓練に職員は参加しているが、事業所の利用者を交えた避難訓練は実施できていない		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの状態を観察し、また、主治医、家族と連携を取りながら起こりうるリスクについて了解を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の顔色、身体状況を観察し、変化の早期発見に努めている。状況に合わせて受診、関係機関との相談家族への報告、連絡ノート記載し職員間での連携を図っている。		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局にて、利用者一人ひとりのお薬手帳に記載してもらい保管、職員がいつでも確認できるようにしている。薬は事務所内で管理し、必要時に準備して渡している。介助が必要な場合は介助を行っている。追加、変更の場合は連絡ノートにて職員に連絡している。		
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	規則正しい食生活、食事量、水分摂取、適度な運動、腹部マッサージ等行い、予防に努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、食後、就寝前に利用者に歯磨き、うがいを促す、介助をする等、個人の状態に合わせて行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望する食事量を把握し、食べやすい食事形態とし、その量により摂取量を記録に残している。食事量が少ないときには食べやすいもの、食べやすい調理法にして工夫している。献立が同じ物にならないよう毎食記録に起こし変化のあるよう工夫している。水分摂取は、食以外でも促し1,500cc以上摂取出来るよう努めている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、予防接種、うがい、手洗いの励行、手すり、トイレ床等清潔を心がけている。個人個人に手ふきタオルを準備している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場、調理器具、冷蔵庫の中等は清掃、除菌、漂白等を行い、常に清潔、衛生に留意している。食材は買い置きを控え、週3回発注、配達を受け賞味期限のチェックを行い、常に新鮮な食材を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には椅子を用意し安全に靴の脱ぎ着出来るよう工夫している。天気のいい日にはくつろぎの場としても利用できる。スロープの設置にて、車イス、歩行器、老人車でも気軽に外出出来る。季節の花が植えられている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事務所カウンター、リビング、玄関前、壁、居室等に季節の花、観葉植物、利用者の作品の展示をしている。季節の花では季節を感じ、作品展示により制作意欲の向上となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集えるテーブル、畳の間には冬はこたつ、夏は座卓を設置、各所にソファや、腰掛け等を設置し、気に入った場所でくつろげるよう工夫している。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力を得て、家具を持ち込んでもら右ことで、 頼自宅の環境に近づけた空間となるようにしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各部屋にオゾン脱臭装置が設置してあり稼働している。各室、リビングは利用者の希望に合わせた温度調節を行っている。起床時、リビング移動中は窓を開け換気をするようにしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関、トイレ、浴室、リビング壁面には手すりを設置、施設内段差をなくし転倒予防に努めている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>自分で出来ることは見守りを行い、出来る限り自分で行ってもらようにしている。介助するときも声をかけをし、確認しながら行っている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関前や、テラスでくつろいだり、お茶を飲んだりすることが出来る。玄関前にはプランターを置き季節の花を植えている。花の水やり、草ひき、野菜を作ったりしている。</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)